

認知症ケアチームの役割

和田康夫(赤穂市民病院皮膚科)

【目的】

当院の認知症ケアチームに問題が生じた。精神科医が不在となったのである。認知症ケア加算の算定要件には、精神科医の参加が不可欠である。精神科医不在のまま、加算はとれないものの、看護師を中心に認知症ケアチームの活動は継続してきた。けれども認知症ケアチームの存在価値を問われ、チーム活動のモチベーションの低下は否めなかった。そこで認知症ケア加算算定の再開や、チーム力向上に向けて取り組みを行うこととした。認知症患者との関わりも増やすために他職種と連携を行うこととした。

【方法】

認知症ケア加算の要件の1つに、精神科医、神経内科医、あるいは特別の講習を受けたものがある。特別の講習資格が、認知症サポート医である。皮膚科医が認知症サポート医を取得した。MSWは認知症ケア専門士の資格取得に向けて取り組んだ。薬剤師は、認知症の個々の患者に対して、注意すべき薬剤などについて検討を行った。入退院支援部門と連携をし、認知症患者は入院時よりチーム介入をすることとした。

【結果】

認知症サポート医が加わることにより、認知症ケア加算の算定ができるようになった。認知症ケアチーム加算は、当初ゼロからのスタートであったが、算定件数は増えてきている。入院支援部門からの協力により、入院時の認知症患者の把握や情報収集をすることができるようになった。

【考察・結論】

認知症患者は、入院当初から関わることが大切である。それまでの環境から大きく変わるからである。環境の変化が不穏状態やBPSDを引き起こす要因となる恐れがある。入院時より、認知症看護認定看護師が関わることにより、入院中のトラブル回避につながると考えられる。チーム医療においては、何よりひとりひとりの意欲向上が大切と考える。MSW、薬剤師が個々の役割を自覚し、やりがいを持って仕事に取り組むことが、チーム力向上、ひいては患者のために大きく寄与すると思われる。

なぜ皮膚科医が認知症と関わるのか？

- 院内には、認知症ケアチームがあり、
認知症ケア加算Iを算定していた。
- ところが、精神科医が不在になり、
チームはあるものの、算定ができなくなった。
- 皮膚科医が、認知症サポート医の資格をとり
チームに参加することとした。

認知症ケアチーム

● 皮膚科医でも参加できます。

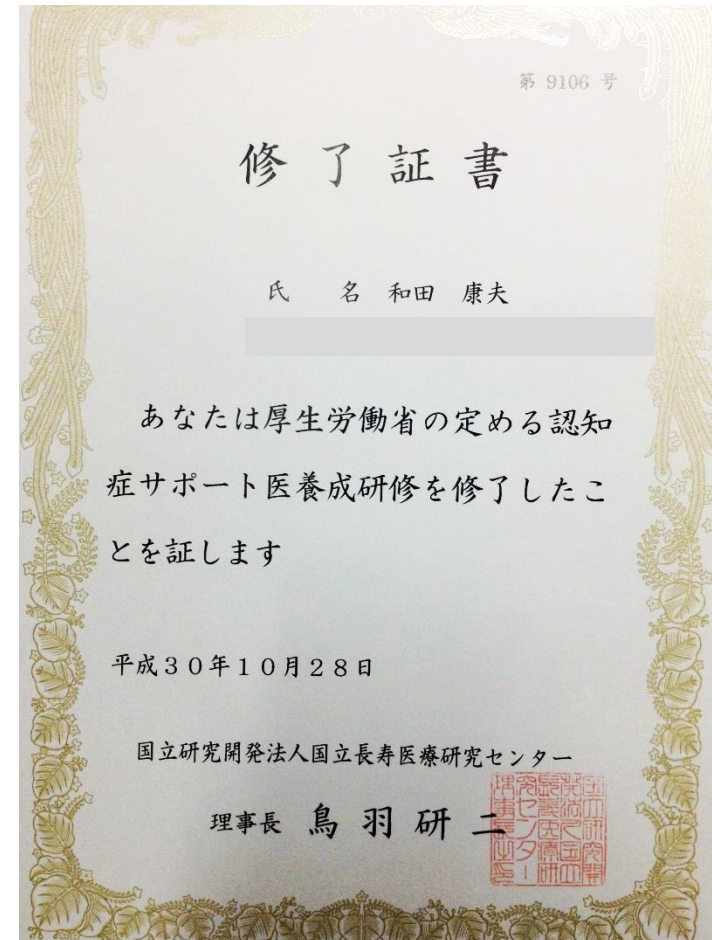
認知症サポート医

(2日間の講習が必要)

● 活動内容

認知症患者

せん妄患者への対応



全国自治体病院学会(福島)



赤穂市民病院
認知症ケアチーム
MSW 西山耕平君

全国自治体病院学会(福島)

第57回 The 57th Annual Congress of JMHA in Fukushima
全国自治体病院学会
in福島



2018年
会期 10月18日(木)・19日(金)

学会長 齋藤 清
(公立大学法人 福島県立医科大学附属病院 病院長)

郡山市労働福祉会館

ポスター会場
(ブース 32~41)

認知症ケアチーム
MSW 西山耕平君